



姉妹都市・馬山にのこる侵略の跡



倭人、城を築く

ここ数年で日韓関係が変化してきている。以前に比べるとぎすぎすした感じは薄らいできたようである。しかし、日本人政治家の発言などをみれば限り関係改善に寄与しているのは、先進国の仲間入りを果たした韓国人の自信と余裕によるのであろう。「日本文化解禁」や韓国映画のヒットなどはその端的な例といえる。

日韓関係史における変化では「倭城」の研究が具体的事例として挙げられよう。豊臣秀吉の朝鮮出兵において築かれた日本軍の侵略拠点の遺跡である。日本での城郭研究の進歩とともに良好な「示準化石」である倭城への注目度も高まってきた。ただ、忘れてならないのは、そこで研究をリードしている人たちだけではなく、日本人研究者に理解と協力をみせてくれる韓国人の存在である。

姫路市では今年の春、慶尚南道馬山市と姉妹都市関係を結んだ。実は姫路も歴史的にみるとこの侵略戦争とは全く無関係でなかったのである。そこでこのニュースでは、倭城研究について紹介してみよう。



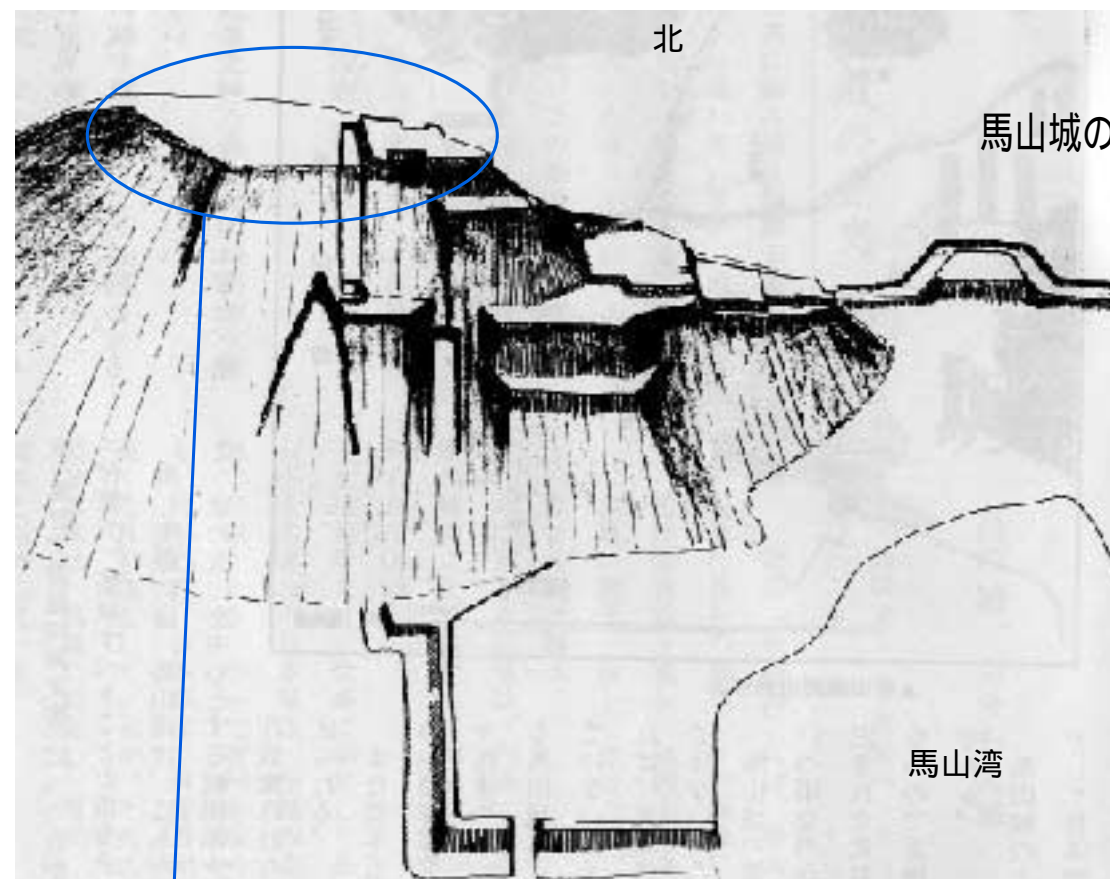
韓国人のもつ日本人イメージの一端

色調の感じでは中国人っぽい。怖そうな顔で描かれている。これが子供向けの本に描かれている事実は知っておく必要があるだろう。

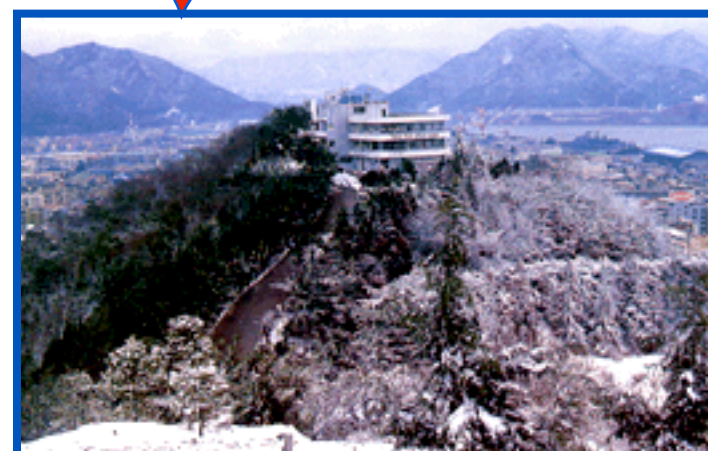
「この後、倭賊らは李舜臣といえ一層恐怖をつのらせて海に出るのをためらった」

この訳文は素人訳なので「？」

「李舜臣(イ スン シン)」(『漫画でつづる偉人伝』キョミン出版社 1992年初版、原文は韓国語)より



馬山城の鳥瞰図(抄出)



馬山湾を望む小高い丘が馬山。市名の由来となった山であろう。そこに倭城の遺跡がある。現在は山湖(サンホ)公園となり遺構の残り具合はあまりよくないらしい。写真は城の最高部附近の様子。

<参考文献、鳥瞰図出典>
倭城址研究会編『倭城』1979年

<http://city.masan.kyongnam.kr/>

馬山城は文献資料では「昌原(チャンウォン)城」と記されている。馬山にはかつて昌原邑城があり、慶尚南道昌原郡の中心であった。馬山城が築かれたのは慶長2、3年頃で、鍋島氏が在番していたらしい。慶長の役で日本軍は朝鮮南部の領土化を企図し、全羅道へ戦線を拡大する。馬山城は、釜山方面から順天(スンチョン)や泗川(サチョン)等へ侵攻するための中継拠点として築かれたとみられている。

馬山へは釜山や金海(キメ)空港からの高速バスが便利。馬山の南にある鎮海(チネ)は軍港として日本人にもよく知られている。桜は今でもきれいとのこと。

